

寺報

善巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎宇奈月 0765 (65) 0055

賀正

みほとけの
光あふれて
いのち
まいにち
あたらしい

御正忌報恩講

一六日	一五日	一四日	一三日
昼一時	朝十一時	昼一時	昼一時
満座	お講	速夜	速夜
	初夜	速夜	
	お講		



寺
ごよみ
一月

一日 修正会 年頭参り
三日 日曜学校カルタ会
八日 栗虫・報恩講
九日
一〇日 お経会新年会
十一日 雪ん子劇団初げいこ



一月十六日は親鸞聖人の御命日です。御正忌の法要がおそかに勤められることは皆様御承知の通りです。

「しかるあひだ、いんじ弘長第二みづのへいぬ黄鐘二十八日、前念命終の業成をあらはして、後念即生の素懐をとげたまひき」

弘長二年十一月二十八日にお亡くなりになったと「報恩講式」にあります。此の十一月二十八日を太陽暦に換算して、私達は一月十六日を御命日として居ります。

善巧寺では、私の背丈ほどの高さの大蠟燭を立て、御絵傳をかけ、十三日から十六日までおつとめがあります。一年中で一番寒い季節で、外は雪で真白で吹雪の荒れ狂うこともあります。

親鸞聖人の九十年の御生涯を思い浮べてみますと、此の峻厳な季節が聖人を憶い偲ぶのに一番相応しいように思われます。聖人の生きていた時代そのものが、あらゆる権威が揺れ動いていた怒濤の荒波の時代でした。人間らしい生活は、何処にも求めようがなく、政治家も教育家も、そして宗教家も本来の姿を失って、形ばかりの名利にふけていた時代です。親鸞聖人は、一生の間、寺を創建せず、教団を組織せず、越後、関東、京洛と居処を転々と移し、荒波の日

御正忌

々の中で私たち一人一人のためのみ教えをお説き下さいました。御本典と云い、御和讃と云い、本当に血の流れるような思いの中で書きつけ、書きのこして下さった御聖教であります。

御正忌の期間、私達は聖人の御苦勞の一つ一つを心に銘じてお念仏いたしたいと思ひます。精進齋して此の御正忌をお迎えしたいと思ひます。

善巧寺の台所の大鍋には、門徒の皆様方の手によつて、精進ものの大根、油揚げ、人参、牛蒡が煮つめられ、湯気にくもつています。御一緒に精進料理をいただきながら聖人の御命日を有意義に過ごしましょう。前裏方の大谷婦子さんの文章を最後に、引かせていただきます。

「浄土真宗では、祖師親鸞聖人は肉食を禁じられませんでした。しかしその流れを汲む私共は、少なくとも毎月、祖師の命日に当たる十六日（旧暦に従う派では二十八日）と報恩講の法要をつとめる時は必ず精進をします。それは戒律に従う、功德を念ずるという意味はあくまでなく、祖師の恩を思い、それによつて仏法に会った喜びをあらたにするためであります。ですから私共は、この時は出来るだけ厳重に菜食を守りたいと思ひます。」

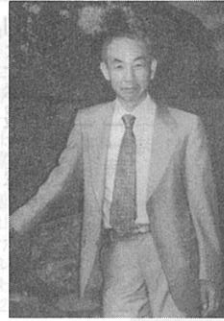
住職 雪山 俊之



いのちを考える ②

行信教校教授
本 山 司 教

梯 實 圓 師



いのちのきらめき

いのちというものを考えてゆきますときに、まず、私は「生命」と漢字で書く場合と「いのち」とかなで書く場合と、ちよつと区別をしておきたいと思うのです。

と申しますのは、この「生命」というものの一番小さな単位として考えられるのは、細胞でございましょう。もちろんさらに小さく分子、原子、素粒子：ということになるかも知れませんが、いわゆ

る生命現象としてみますと細胞ということになるでしょう。単細胞動物から多細胞で組織をつくり、それが機関というものをつくりあげ、それが系を、またその統合されたものとして「個体」というものが成立するわけなんです。ゾウリ虫からイヌ、ネコ、人間にいたるまで、こうした細胞のあつまりが分裂し、そして死がいを残して終わってゆきます。

これもまあ生命現象といえはいいのですが、どうも私たちが、「いのち」という場合は、もう少し違った感じじゃないかと思ふんです。例えばね、私がふと目の前に、木から落ちて死んでい

るセミの死がいを見ても、あまり心が動きません。「あ、セミが死んでいるな」というぐらいです。けれども、それが自分の子供だったかどうか「あ、子供が死にかかっている…」なんて気安いの

じゃないでしょう。その時に、いのちが失なわれるという同じことでも、セミと自分の子供とは全然違うでしょう。まあ、そんなところを私は「生命」と「いのち」と区別しているんです。

まあ、このように「いのち」というものは、平常はなんとも意識しませんが、失なわれかけたときものすごい実在感をもって、私たちにせまってくるんですね。

さて、そこで「いのち」というものを考えますときに、まず、なんといいても「かけがえがない」ということが挙げられるのではないですか。かけがえのないというのが、いのちを特徴づける一つの性格でございましょう。そして、いのちというものは、常に「具体

私のいのちは私以外に生きられない 私の死は私以外に死にようがない

こと、わかるでしょう。だから、その一回きりであるからこそ、失なわれてゆくことに対する無限の哀惜というものがわいてくるわけなんです。

そう、いのちを惜しむということとは、一回きりで、かけがえのないということに対する、正確な対応の状況であろうと思うのでございします。

さて、そこで、まず、この、いのちは「かけがえのないもの」であるというのを考えてみたいのですが、むずかしいこと抜きにして、いのちの特徴として、代わりがきかないということなんです。私のいのちは、私以外に生きてく

れる人はいません。ちよつと、今日はいそがしいので、私の代わりに死んでくれ、なんてことできないんです。私の死は、私以外に死にようがない、この一つだけでも私たちが、はっきりしておいたほうがいいと思うんです。私以外に生きようのない私のいのちならば、私なりに納得のゆく生き方をしなかつたら、いのちに対する責任が果せないのと同じですか？ このいのち私以外に死にようがないならば私の死は私らしく死んでゆこうと

いう：そういう覚悟があつてしかるべきじゃないかと思ひます。かけがえのないいのち……言葉でいえはわかるんですが、普段、私たちは、かけがえのあるものばかり見ているのと同じですか？ 代わりのきくものばかりに目がついてしまっているんじゃないですか？

ねえ、私、今日は講師としてこへまいりました。で、みなさんは講師の梯、というふうに見て下さる。しかし、この講師という方は、いくらでも代わりがあるんです。私が今ここで倒れても、あとはちゃんとだれかが代わって講義をして下さるでしょう。けれども、この私、梯實圓には代わりはないんです。えらいややこしいこというようですけどね、これ一ぺん考えてみましょうや。

わかりやすいいますとね。そうそう、私、前に、中曽根康弘さんにお会いしたことがあるんです。内閣総理大臣だったころ。いや、お会いしたといつてもね、べつに訪ねていったわけでもないし、むこうが訪ねてきたわけでもない。駅でばつたり出会ったんです。

東京駅でした。築地本願寺から帰る時に、新幹線に乗ろうと思つて駅へ入って行つたんです。そして駅員の方が、「ちよつと待って下さい」といふんです。何かなと見たら、七人ほどそこへ止められている乗客がいる。そこへね、一

かけがえのない

分もたたぬうち、ザツと一団の人がやって来た。見たら、真ん中に中曽根さん、で、向こうは知らんかも知れんが、こっちはよう知つとる。「ああ、中曽根さんか。」というわけ、見てましたら、まさにボディガードがついてましてね。背広の前をあけてね、あれピストル持ってるんだしような。横向きながら前へ歩いてゆくんです。それがタッタタッタと、早いですな歩く

二度とない私のいのち、尊し

のは。総理大臣にはなるもんやないね、ブラブラ歩けません。ゆっくり歩いてたらねられてあぶないんでしょ。な。

ま、それはさておき、その時、待たされているついでにふと思っただんですが、中曽根さん、内閣総理大臣：これはまあ行政の長官ですからね。日

本でも重要なポストですわな。

で、みんな、総理大臣という、かけがえのないお方だと言っています。けど、よく考えてみると、総理大臣のかけがえなんか、なんぼでもおると違いますが。あんなの議事堂へ行ったら代わりはない

のがクサるほどいますよ。だけれどね、中曽根康弘という方の代わりはないわな。

私たちはね、社会的な地位とかね、そういうものだけで人間を見ているんじゃないですか。それであの人は尊い人やか、つまらん人だとか、社会的な役割だけで、自分にとって都合がいいかどうか、かけがえのない人の「いのち」

までも見てしまふ。おそろしいことだけれど、こういうのが多いんじゃないですか。

若い者が年寄を見て「役に立たんものはあつちへ行け」というような利用価値だけのものをいう。そして、お年寄でもそうですね。「私のように役に立たん人間にな

たんといつて、自分で自分を見捨ててどうするの。これは、自分の「いのち」に対する、最大の冒とくですよ。これだけはやめまじょう。何の役に立たなくても、そこに生きているということ、無限の意味と価値をもっている。それが「いのち」というものなんだと味わえる、そういう「目」をひらいてゆかねばならないと思うんです。そういう目をひらいて下さるのが、仏さまなんです。どうかみなさん、仏さまのおしやることをよく聞いて、人のいのち、自分のいのちを、ただ利用価値で見るのではなく、かけがえのないすばらしいものなんだということに気付いていただきたいと思うのです。

十二月七日 月曜 雪。カーテンを開けると庭一面の雪景色。未だちらちらと降っている。今日は京都行の予定。車にて魚津駅へ。一〇時五九分発の雷鳥十四号に乗る。切符を買うこと、時間を決めること、宿を定めることその他一切妻に任せきりで、こちらは座席につくとリクライニングさせて、眠っていればいい。昼食は車中で釜めし。途中雪は全くなし。京都着一四時三五分。早速、車で直接西大谷に行く。裏門前の山口花店へ車を停める。私が中学生の頃、春秋の彼岸には、きまって父母に連れられて明教院の墓詣りに来たものだった。その時何時も寄る店

が此の店だった。束にしてくつである供花、並んでいる手桶、お香の匂い、六十年前と変わっていない。花と香を買い、手桶を借りて、勸学谷に向う。明教院僧院道隠、快樂院柔遠と、空華三轡の墓が正面にある。それに従うが如く、全国津々浦々から、勸学の名を刻した墓が向い合って並んでいる。見事という他ない。

明教院僧院の前に、蠟燭の明りを点じ合掌する。あたりに人影一つない。妻と二人で讃仏偈を上げる。読誦し終って、一瞬大役を果



住職日記

したような気になる。此の四、五カ月、必ずしも健康とはいえない月日を過ごし、不図、思いついての上落だったのだが、多少の懸念もなきにしもあらず。やつとほっとした気持ちになれる。近くに「雪山家墓」がある。亡父が昭和十九年八月、母の三回忌の際建てたもので、父母と二人の弟の白骨が納まっている。母の実家、越前興源寺の墓、妻の実家江州本行寺の墓もある。墓前に合掌し、車を待たせてある駐車場に向う。

宿に着いたのが、四時半。鴨川冬枯や、勸学谷に向う道冬枯や、代替りせし、花の店

寺

二月

- 一日 お講・浦山
- 八日 三日市・報恩講
- 九日 〇日
- 一〇日
- 一二日 生地・荻生・報恩講
- 一三日 お講・下立
- 一六日 〇日
- 一九日 下立・報恩講
- 二〇日
- 二二日 舟見・報恩講
- 二四日 泊・入善・報恩講
- 二五日 板屋・熊野・報恩講



北日本新聞 地域社会賞受賞



上のトロフィーはさる十一月三日、北日本新聞社からいただいたズッシリ重い「地域社会賞」。
生きた言葉とはつらつ演技と、その他いろいろ、とにかく宇奈月の山寺で、ようやとるわい、というわけにいただきました。
スポーツなら日本一にならないともえないようなこの賞、宇奈月町では初めてだそうです。うれしいじゃないですか。ねえ、みなさん、一緒にようこんでやってくださいませよ。



氷見市灘浦中学校へ 10月25日

富山の端と端 氷見市の灘浦中学校へ招かれて十月二十五日、若ハンの講演と雪ん子公演と、合わせて二時間の大コーエン。同中の生徒だけでなく父兄も、近くの小学生も、町をあげての観劇にこちらも心わくわく大感激！



富山県こどもフェスティバル

氷見と同じ日、富山市の教育文化センターでは「県こどもフェスティバル」。今年で十回目を迎えるこの大会に、雪ん子は六年連続出場。大賞、奨励賞などを独占するため、三年前から賞はなしになっしまいました。とにかく舞台が素晴らしい。これぞほんとの晴れ舞台。思い出づくりに今年は「原っぱの無人島」を熱演しました。

クイズフォーカスイン

11月29日
富山TV

アナ「サテ問題です。宇奈月町浦山にある雪ん子劇団は、練習前にユニークな準備運動をやっています、それはいったい、どんな準備運動でしょう？」十一月二十九日朝の富山テレビ「クイズフォーカスイン」見ました？



アナ「ハイ、答えは手つなぎ鬼でした。劇の練習の前に一年生から六年生まで、タテのつながりの中でみんな仲よく手をつないで体をほぐし、心をほぐす……けっこうですね」——雪ん子はいまやクイズの問題にまでなっちゃうのね！

表彰状

雪山隆弘殿

あなた雪ん子劇団(創始者として)長年にわたり児童の健全育成と児童福祉の向上に寄与し、功績は顕著であります。よってここに記念品を贈り表彰します。

昭和六十二年十月一日
宇奈月町児童会
会長 奥田利則

町福祉表彰

ごほうびはもう一つ。宇奈月町の福祉協議会から、表彰状をいただきました。毎年夏の定期公演を中央公民館でやらせてもらっていますが、ちょうどその折に「一日里親」という催しがあった、施設の子供たちが、舞台げい古や、本公演を見てくれます。こっちからお礼をいわねばならないくらいなのに、賞状いただいたりして……

愛の年末児童大会

県民会館
12月13日



その施設の子供たちに富山で再会！ 暮れの十二月十三日、富山の県民会館で「愛の年末児童大会」が開催され、県内の施設の子や身障児など千人ほど集まりました。県の福祉課からこの大会のアトラクションに——と依頼があり、喜んでお受けしました。富山市星井小のオペレッタ、桜谷保育園のリズム劇、可西舞踊研究所のバレエ、富山商高の吹奏楽などと一緒には、雪ん子は「ことばあそびうた」と「うちのとうちゃん」で三〇分。場内をわかせました。バスで送迎、おやつにおみやげまでついて、県民会館初出演はうれしい体験でした。



富山市広田小学校へ 12月20日

今年の公演回数は、これまでの最高の九回。その最後を飾るのは十二月二十日、富山市立広田小学校の「年忘れおたのしみ大会」。同小学校下の児童クラブの大会で、会場には八百人近いお友だち。雪ん子劇団員二年から六年まで四三人が舞台いっぱい、元気いっぱい、いきいき、わくわく、はつらつ演技で一時間三〇分たっぷり見てもらいました。



県の広報にも

雪ん子の活やくはTVや新聞、雑誌にも紹介されましたが、今年は十一月号の「県広報とやま」にも、「ふるさとみてある記」のページに、名剣温泉とやらんで、のびのび育て雪ん子たち」と。

バンザイ！ よくやっただね

と十二月二十日、雪ん子のお母さん、お父さんの会「夢を育てる会」(新保幸夫会長)が、北日本地域社会賞の受賞祝賀と、男センセイ女センセイの慰労、それに会の親ばくなどをかねて、にぎやかに忘年会、いや、この年を忘れないようにというパーティーを開いた。

夢を育てる会がごほうびパーティー

開基五百年 前住・坊守五十回忌

三年後の秋に勤修

秋の総代会で決まる

10月19日

善巧寺の秋の総代会が十月十九日開かれ、六十六年に、前住職と坊守の五十回忌と、開基五百年の大法要を勤修することを決めました。法要の内容や記念事業については門信徒の方々のご意見をうかがってからのこととしていますが、とにかく三年後には本山の顕如上人四百回忌とならんでわが寺にも大きな目標ができたわけで、このご縁を念仏繁盛の一大機縁にと願ってやみません。

この日の総代会で、まず挨拶に立った住職が「わたしの父母の五十回忌が、ぼつぼつ近づいてきている。昔から親の五十回忌というのはなかなかできないめでた



明らかにしました。

事業計画は今春にも

報恩講回りについて

ば、善巧寺がはじまっておよそ五百年にもなるため、合わせて開基五百年の慶讃法要も、ということになりました。

同会では、このあと①門徒報恩講回りについて②一般会費について③法要準備費について④本山事業について⑤僧班について——など話し合われました。順を追って報告いたしますと――

寺の日程等の関係、さらに門徒

戸数の増減により、一部の地区においては、例年通りの日程を大幅に変更する場合もあるので、ご了承願いたい——と、これは寺から門徒各位へのご協力お願い。

一般会費について

寺費とか「板がえし」とかいわれているもので、税務署ではこれを一般会費といっています。

「寺は御堂も屋根も庫裡もりっぱになつとるのだから、板がえしは要らんのじゃないか」といわれる門徒さんの中にはあ

りますが、寺はこの会費とお布施の収入で成り立っているものでありまして、このところ会費の値上げをしていなかったのですが、昨年あたりから、どうにもやりくりがむずかしくなりましたので、今回の報恩講回りにから千円～二千円の増額ということでお願いすることになりました。

法要準備費について

はじめに報告しました前住職・坊守五十回忌、開基五百年の大法要のため、まだ予算は決まっていますが、その準備金として、今回の報恩講回りは二～三千元、一般会費と合わせてお願いしておりますので、よろしくご協力下さい。

本山事業について

本山では同じく六十六年に大法要を勤められますが、その法要費の門徒わりが一戸当り一万円余りになっていきますが、これについては、門徒の院号等の特別懇志で、なんとかまかまなっていますので個々には集めません。

僧班について

住職、若院の衣の色が変わります。住職は「親座（からし色）」から「顕座」（あずき色）へ。若院

は「直座（みどり色）」から「親座」へ。

これは本山で行われる法要等の席次を決める目安になると同時に、本山への貢献度のあかしでもありまして、皆さんのおかげで、ごえはんは、一番の衣になりました。しかし、まだ衣は注文しておりません。どなたか、二人の衣と袈裟と袴をご寄進して下さい方、おられますか。お待ちしています。

寺
ごよみ
三月



一日 お講・浦山
二日 浦山・報恩講
一日 太子会 建設の仕事なさっている方々が一堂に会して、寺の維持管理について語り合う大事な法事です。おさそい合わせご参集下さい。

一六日 お講・栃沢
一七日 富山・報恩講
一八日 春の総代会
二〇日 雪ん子劇団春の定期公演

二六日 雪ん子劇団春の定期公演

い き い き か ら わ く わ く へ

新春放談に若ハン出演 1月1日 富山TV



語れば、若ハンの方は「いきいき富山からわくわく富山へ」と、雪ん子劇団やお寺の法事などを通して、わくわくとするような話をこ披露しました。

「オヤ？ 正月早々、寺の若ハン、知事さんと語つてるぜ」——そうなんです。一月一日朝、富山テレビの新春知事放談で、作家の辺見じゅんさんと共に「富山の文化を語る」(7・55・8・25)に出演しました。辺見さんが父、角川源義さんを通して故郷、富山を

知事さんは日本一の文化県へとおっしゃってますが、じつは富山は昔から宗教文化においては日本一でありまして、例えば、門徒さんの法事一つをとってみても、その法事をりっぱにとめるために、りっぱな家を建てました。これが今の持家率ナンバーワンになっている。それから貯蓄ナンバーワンにしたって、恥かしくない法事をしようというので一生懸命貯められたわけで、家と金でぜいたくしようというのではありません。そして、下新川ではゴネンキさまといつて、それこそ一世一代のハレのご法事をする為に、二年も三年も前から、わくわくしながら

一月十三日より十六日まで
清正報恩講
 布教 当山若院

善巧寺の常例行事

お寺の講	毎月 一日・十六日
お寺の学校	毎月 第四土曜日
雪ん子劇団	毎週 月曜四時
夢の会	毎月 第二土曜日
花の会	毎月 第一月曜日
お経の会	第一・第三土曜日

精一杯働かれる。これこそ日本一のわくわく文化県じゃないですか——とまあ、こんなことをブラウン管を通して話したかったわけなんです。そしてそのわくわくがいままた違った形で、雪ん子の子

世界へ子や孫へお願いします！

「世界中のめぐまれない子供たちへ」あなたの、あたたかい手を——「お願いします！」と、暮れの八日、魚津のサンブラザ前で歳末助け合い募金運動が行われお寺の奥さんや若ハンや、日曜学校のメンバーがたくさん参加しました。

富山本願寺が毎年行っているもので、集計によるとサンブラザ前

ビデオ発売

雪ん子ビデオ第三巻
 「桃太郎の冒険」
 三〇分カラー版 五、〇〇〇円

この劇は本当に素晴らしい。演技もみんな一生懸命です。劇団四季でこれを演出した宮島春彦さんが「ウーム！ これはこれは、よくできている！」と拍手。買って！

見るお経シリーズ第五巻
 子供たちよ おしやかさま
 三〇分カラー版 九、三〇〇円

これは若ハンが本山で作っているビデオアニメ。超一流。歴史に残る見るお経です。注文は寺へ。

合 掌

小学校の社会科の問題に、こんなのがあったそうです。

四国だったかのある地区の森林が、とてもよく育って、うっそうと繁っているのですが、どうしてこんな立派な森林が出来たのでしょうか？

という問いで、気候がいいからとか、植物に適した土壌だから、とかいろいろあって、もう一つ——

「先祖の人々が、子孫のことを考えていたから」とあったそうです。答えはもちろん、先祖のおかげ。

これを教えて下さったのは、じつは本山の範子裏方。東海地区仏婦大会に出講して「みどり一本運動」の話などをしましたら、そのあとのお言葉でおっしゃったんです。

そう、世界中にみどりを——と、UNHCRの「みどり一本運動」に協力しはじめてから、ようやく二年。善巧寺の門信徒の熱い心で二四〇本の木が世界のどこかに。この運動、あと百年はつづきます。念仏の心を世界へ子や孫へ——今年もよろしくお願いします。

